



Q：風邪とインフルエンザはどう違うのですか？（30代・会社員）

A：風邪（風邪症候群）は、風邪を引き起こす数種のウイルスが原因で起こり、喉の痛み、鼻汁、せき、くしゃみなどの症状が中心で、一般的に軽度です。これに対しインフルエンザは、インフルエンザウイルスが原因で、特に子どもや高齢者は気管支炎や肺炎を併発しやすく、重症化すると脳炎を起こすこともあり、最悪の場合、死に至る危険な病気なのです。

インフルエンザの潜伏期間は通常1～2日ほどで、39℃を越える高熱、だるさ、筋肉

痛、関節痛などの全身症状で、突然発症するのが特徴です。喉の痛み、鼻汁、せきなどはみられないこともあります。

インフルエンザの予防には、ワクチン接種が有効で、接種してもかかってしまう場合があるものの、少なくとも症状を軽減し重症化を防ぐことができます。流行期前に抗体を作っておくことが重要ですが、ワクチン接種後に十分に抗体ができるまでに2週間くらいはかかりますので、予防接種は早めに受ける方がよいでしょう。ちなみに現在のワクチンは季節性A型、B型および新型インフルエンザウイルスに対する3種混合ワクチンになっています。



◇（岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニシコー北口駅前ビル2F）

☎055・288・1801